

実践編 第三回 『烏帽子名覚』

八三郎事

山口幸八

半蔵事

小山幸助

午之助事

小川善蔵

亀之助事

林惣七

市左衛門事

吉沢市左衛門

源六事

馬場源左衛門

弥助事

小川弥太郎

甚助事

小川次郎兵衛

文次事

立川弥平次

山次郎事



「烏帽子名覚 元文六年酉二月十一日初午」

(小川家文書 E-17)

平沢平右衛門

次郎市事

若林二郎左衛門

源之丞事

金子仲右衛門

平三郎事

宮寺儀兵衛

新太郎事

川端茂兵次

大助事

竹内和吉

忠三郎事

清水忠三郎

勝平次事

酒井五郎兵衛

【解説】

今回の文書は、表題のみ基礎講座「表題を読んでみよう」で以前紹介しています。「烏帽子」とは元服した男子の用いた袋状の冠りものことで、烏帽子を被らせ烏帽子名（成人名）を付ける、今でいう成人式のような儀式が行われていました。「烏帽子名覚」はこの儀式で作成された文書で、

この年成人となった者の幼名と烏帽子名が記されています。ここでは百姓の身分であるにも関わらず、全員に苗字がつけられていることが判ります。当時、公的に苗字を名乗ることは禁じられていましたが、私的な場面に於いて使用されていたことが証明できる、貴重な資料です。

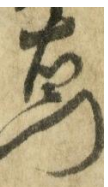
次に、文字を見ていきましょう。「人名を読んでみよう」で紹介した



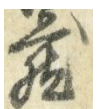
「兵衛」、



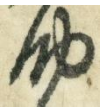
「左衛門」、



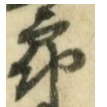
「右衛門」、



「蔵」、




「助」、




「郎」など、

ここでも基本の名前が記されています。「左」

「右」の判別は出来ましたか。三画目が「左」は上に向かい、「右」は横に流れます。「門」は「つ」の様にみえます。「郎」の偏上部「白」の部分が冠のように記されています。

また、「…郎右衛門」「…郎兵衛」の場合の  「郎」は「ら」の様にく

ずれます。ここにはありませんが  「教」も偏の上部が冠化する場合が

あります。 「決」、 「衛」なども、偏と旁の上部が冠化する傾向

があります。また、 「事」も特徴的です。くずしが進む

と「る」を伸ばした様に見えますが、頻出するのでこのまま覚えましょう。